



1. 博多港の現状と取組みについて

第35回 博多港地方港湾審議会

令和8年2月4日

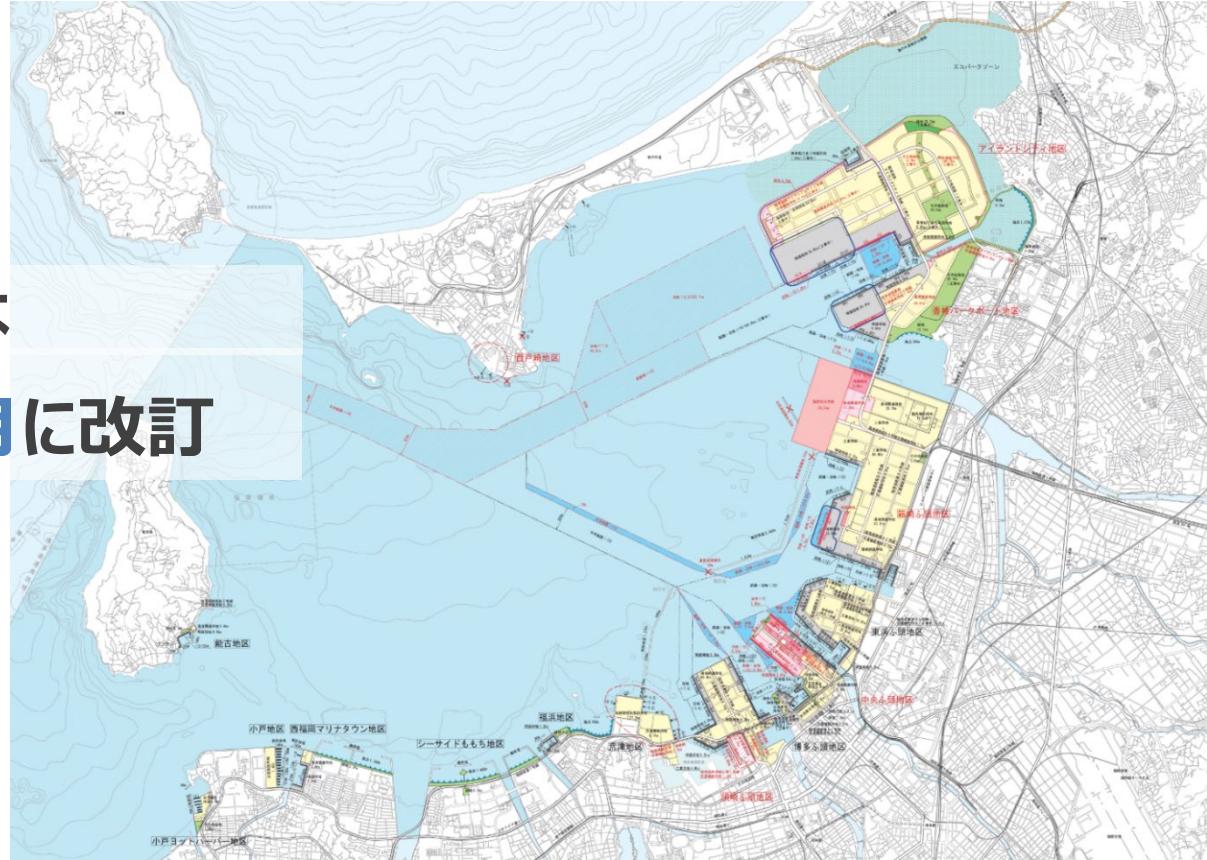
博多港港湾計画(H28.3改訂)

港湾計画とは・・

**10～15年程度の将来を目標とした、
港の整備・運営の指針となる基本計画（法定計画）**

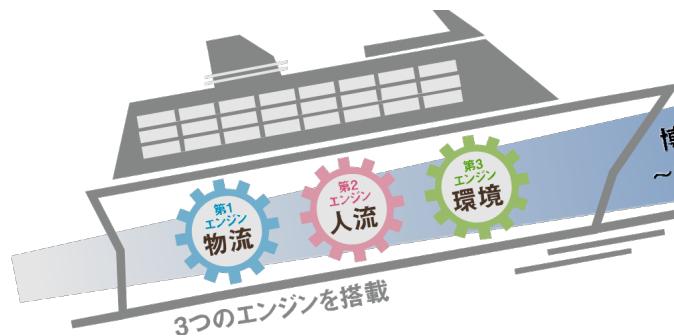
現在の港湾計画は

平成28年3月に改訂



博多港港湾計画(H28.3改訂)の方針

活力と存在感に満ちた「日本の対アジア拠点港」



“活力と存在感に満ちた
「日本の対アジア拠点港」”



方針① 都市の成長を牽引するみとづくり



方針② 交流を促進し親しまれるみとづくり



方針③ 環境を守り・育てるみとづくり

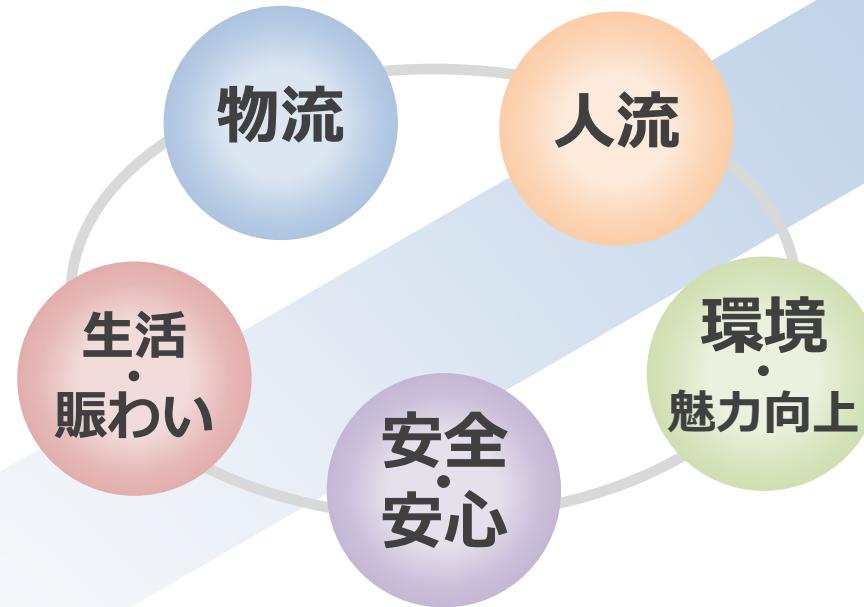
博多港の将来像

港湾計画は、博多港の将来像実現に向けた第一歩！



博多港の現状と取組みについて

博多港はこれまで福岡市の持続的な成長に大きく貢献！



博多港の強み アジアに近い地理的優位性



博多港の強み 海・陸・空の輸送モードがコンパクトに集積

■半径 5 km圏内 物流の拠点が集積



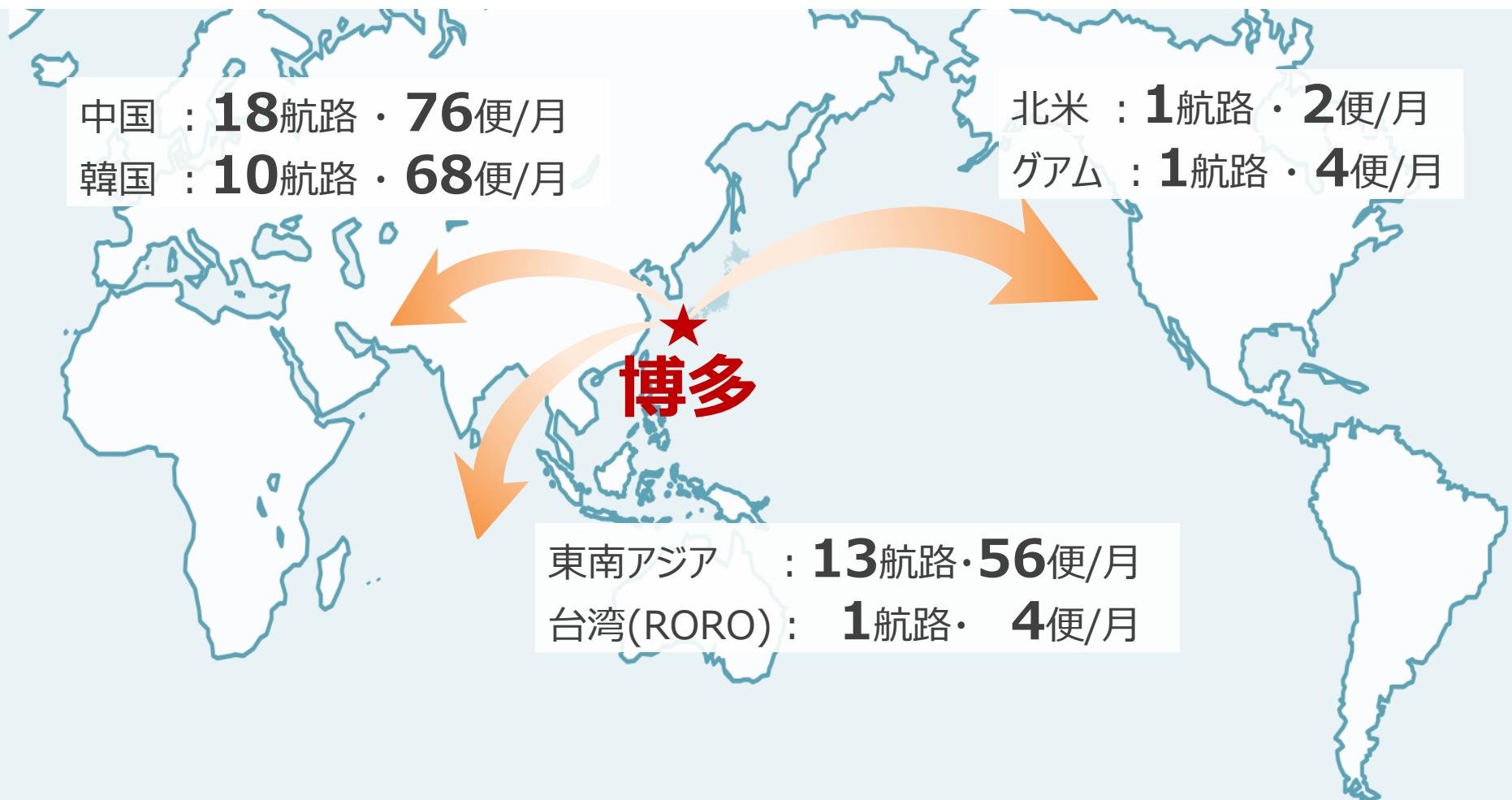
博多港の強み 海・陸・空の輸送モードがコンパクトに集積

■半径2.5km圏内 交通拠点・都市機能が集積



国際コンテナ定期航路

■ 国際コンテナ定期航路 **44航路・月間 210便** (令和8年1月)



充実したRORO航路（国際・国内）



①韓国航路
(カメリアライン)

釜山

5 時間半
(毎日)



②台湾・那覇航路
(琉球海運)

高雄

3.5日
(週 1便)

那覇

25時間
(週 6便)



③敦賀航路
(近海郵船)

敦賀

20時間
(週 3便)

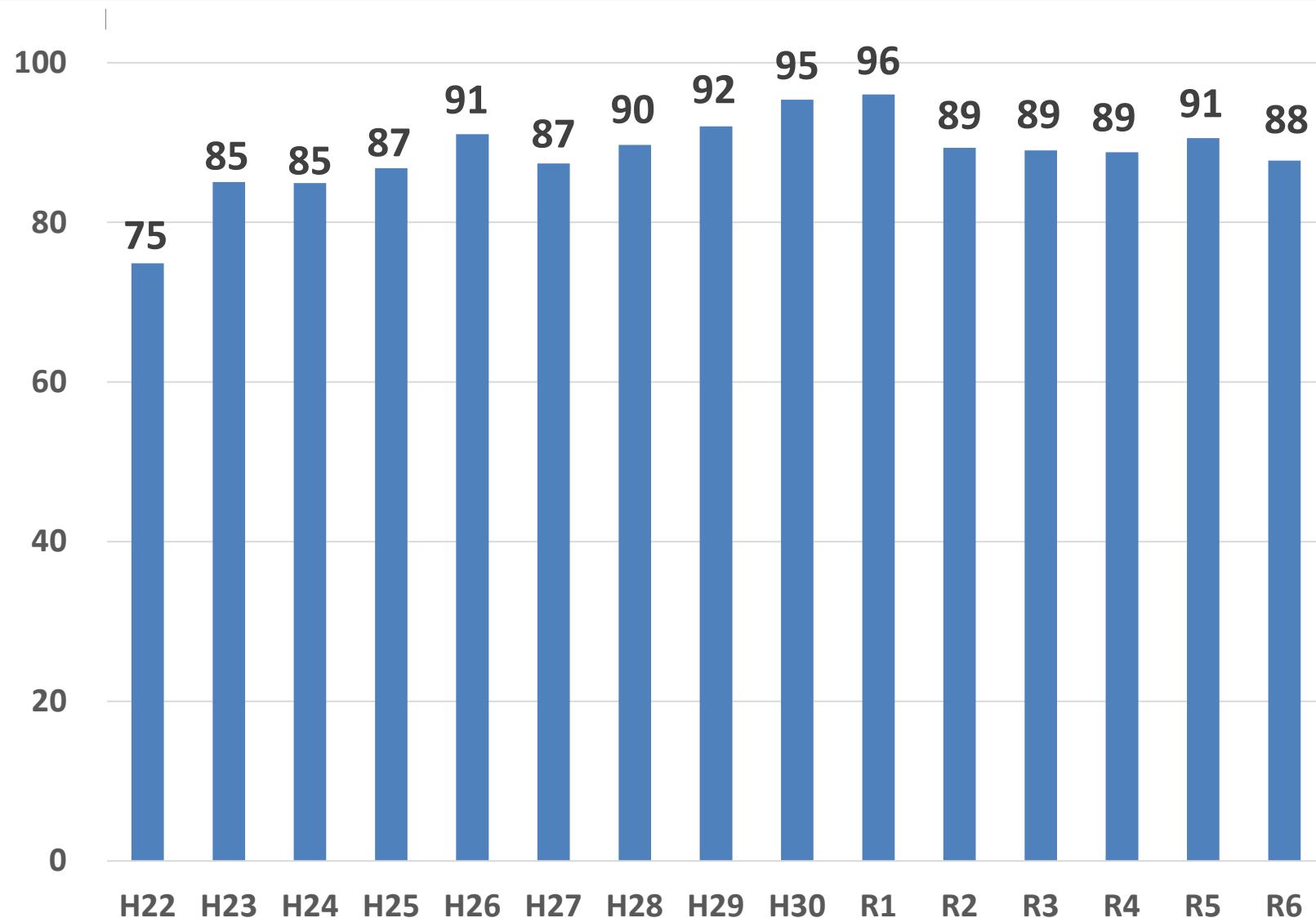


④東京航路
(商船三井さんふらわあ
/ NX海運)

東京

33時間
(週 6便)

国際海上コンテナ取扱個数の推移



主なコンテナ取扱品目（令和6年）

輸移出 計 432,682 TEU

第1位 完成自動車

46,767 TEU (10.8%)



第2位 ゴム製品

39,323 TEU (9.1%)



第3位 再利用資材

19,636 TEU (4.5%)



第4位 自動車部品

19,329 TEU (4.5%)



第5位 産業機械

16,106 TEU (3.7%)



輸移入 計 444,700 TEU

第1位 家具装備品

48,886 TEU (11.0%)



第2位 衣類・身廻品 はきもの

32,291 TEU (7.3%)



第3位 動植物性 製造飼肥料

29,736 TEU (6.7%)



第4位 電気機械

26,748 TEU (6.0%)



第5位 製造食品

25,912 TEU (5.8%)



コンテナターミナルの機能強化

- Dコンテナターミナル 供用開始 (令和5年3月1日)
- 自動車専用道路アイランドシティ線 開通 (令和3年3月27日)



コンテナターミナルの機能強化

■ ターミナル直背後の**バンプール** 供用開始
(空コンテナ蔵置スペース)

■ 長距離ドライバーのための**休憩・利便施設**の供用開始

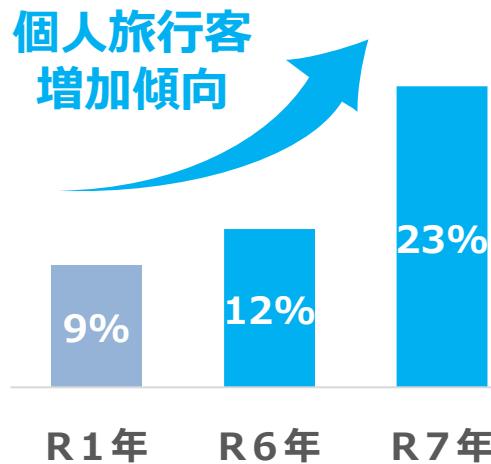
さらに
物流効率
UP!





人流機能に係る検討 【国際定期機能】

■ クルーズ船 1 隻あたりの個人旅行客割合（左）と個人旅行客の主な動線（右）



- ※ 1) 個人旅行客数 = 乗船者数 - 寄港地観光ツアー参加者数
- (※ 2) と想定、すべてのクルーズ客が下船と仮定
- ※ 2) 寄港地観光ツアー参加者数 = バス待機場を利用した観光バス台数実績×40人/台と想定（シャトルバスは除く）
- ※ 3) R7年は8月までの速報値をもとに算定



主な課題

タクシー・観光バス・クルーズ客等と物流車両との輻輳が生じている

検討の方向性

クルーズ客等の安全性確保の観点から、国際定期機能の中央ふ頭東側への早期移転に向けた取組みを進める

人流機能に係る検討 【クルーズ機能】



主な課題

- 荷物の預入れ・受渡しなどに必要な、クルーズセンターのスペースが不足
- 乗船手続き待ちの集中時間帯で、クルーズセンター屋外での待機が発生

クルーズ 需要

<主要な国内船社の配船体制拡充>

- ・郵船クルーズ及び商船三井クルーズは、飛鳥Ⅲや三井オーシャンフジの就航により、2隻から4隻体制に拡大
- ・商船三井クルーズは新造船2隻の計画があり、今後計6隻体制へ拡大の見込み

<国内他港を発着するクルーズ船の大型化>

- ・東京港や横浜港などを発着するクルーズでは、乗客定員5,000名を超える大型クルーズ船(MSCベリッシマ)が投入

<新たな形態のクルーズ投入>

- ・令和10年度に、東京港を発着するディズニークルーズ（乗客定員4,000名）が就航予定
- ・ファミリー層などあらゆる世代がターゲットとされている

検討の 方向性

- 日本発着クルーズは、配船体制の拡充など市場の成長が見込まれ、市民が乗船できる機会の創出や地域経済の活性化が期待される
- クルーズ市場の動向を踏まえ、旅客ターミナル等の検討を進める

人流機能に係る検討 【国内定期機能】



主な課題

- 築50年が経過し老朽化
- 生活航路であるため、運航を止めることなく機能更新が必要
- 荷役作業における制約や輻輳が生じている
- 博多ふ頭内での現地建替や他地区への移転について、詳細な検討を進める

検討の
方向性

主な課題

- 中央ふ頭先端部に計画している耐震強化岸壁(緊急物資輸送用)と背後が未整備の状況
- 大規模地震発生時の支援物資輸送の拠点など、耐震強化岸壁及び背後を活用した防災機能のあり方について検討を進める

検討の
方向性

人流機能に係る検討 【検討イメージ】



国際定期機能

- ・旅客ターミナル
 - ・交通広場
 - ・上屋
 - ・コンテナヤード
- など

クルーズ機能

- ・旅客ターミナル
 - ・交通広場
 - ・観光バス待機場
- など

国内定期機能

- ・旅客ターミナル
 - ・交通広場
 - ・上屋
 - ・野積場
- など

ウォーターフロントの再整備

人流機能やMICE機能の充実とあわせ、市民など多くの人々で賑わい、憩う海辺空間の創出に向けて、クルーズ、MICE、海辺空間などを活かしたウォーターフロント地区の将来像（土地利用・交通の方針等）を検討していく

【ウォーターフロント地区の現況】



【将来像イメージ】

<市民など多くの人々で賑わい、憩う海辺空間>



<クルーズターミナルに隣接する商業施設・ホテル>



<機能的・一体的に配置されたMICE拠点の形成>



アイランドシティまちづくりの推進

■ アイランドシティにおける快適で高質な都市空間の形成

【令和7年12月末時点】

- 居住人口 約**16,300**人
- 住宅供給戸数 約**6,960**戸



アイランドシティまちづくりの推進

令和7年秋、アイランドシティはまちびらき20周年を迎えました。

記念ロゴの作成や、10月26日の記念式典から4週連続でさまざまなイベントを実施しました。

〈記念ロゴ〉



〈イベントの様子〉



〈記念式典〉



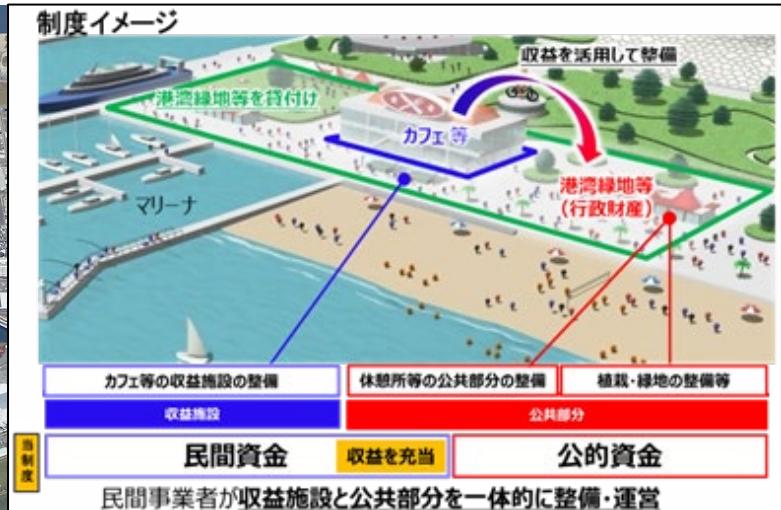
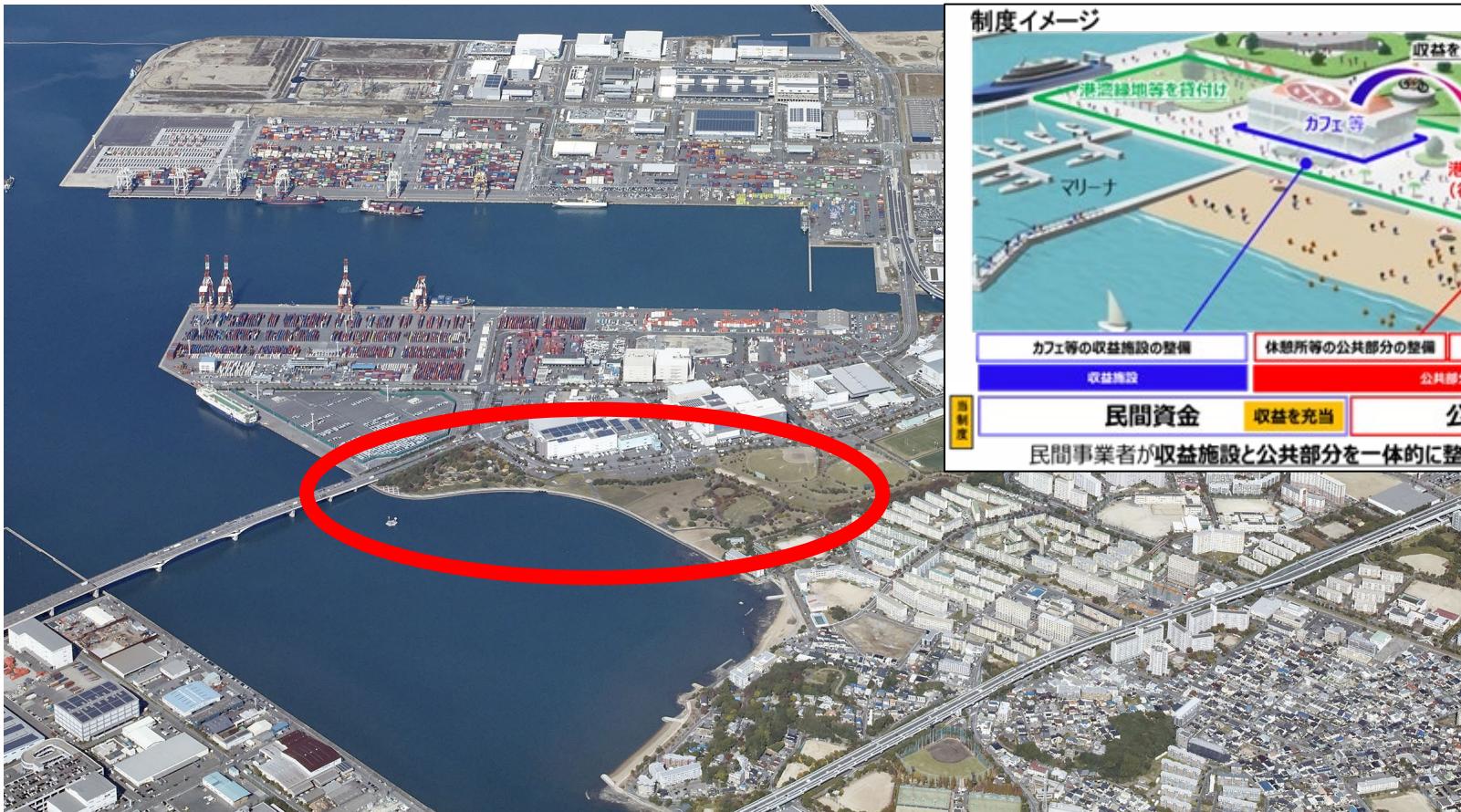
〈コスモス畑の整備〉

〈フラワーゲートの設置〉

みなと緑地PPP(港湾環境整備計画制度)の活用

■港湾緑地「みなと100年公園」リニューアル事業

民間活力導入による魅力ある賑わい空間の形成



環境の保全・創造

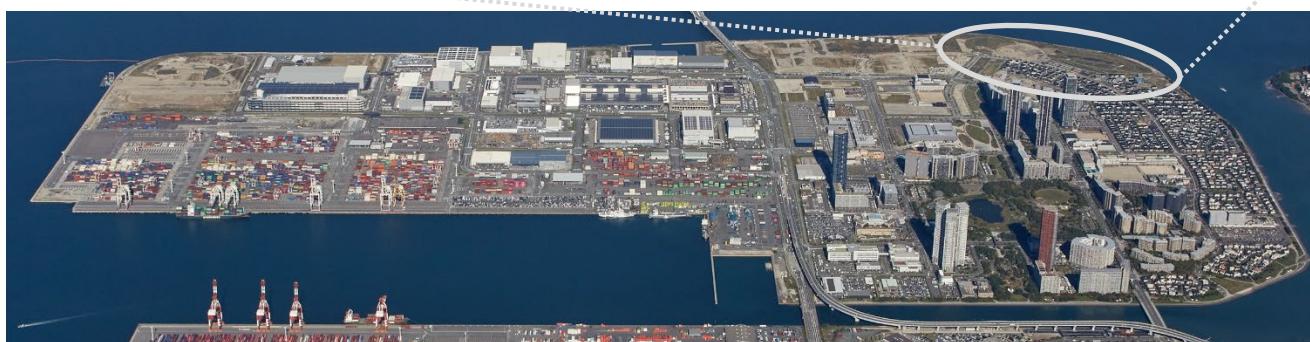
■アイランドシティはばたき公園整備事業



アイランドシティはばたき公園



野鳥観察の丘



野鳥観察の様子

博多湾における自然環境の保全・創造・活用

■ 博多湾のアマモ場とアマモ場づくり活動



多様な主体との連携・協働

■博多湾NEXT会議（平成30年5月設立）

- ※博多湾の環境保全・創造等に取り組んでいる
市民、市民団体、企業、漁業関係者、学校などが参加
- ※会員：68団体 個人会員27名（令和8年1月末現在）



市民参加型 環境イベント・シンポジウム

■あつまれ！博多only湾！



■ 博多湾ダフル！



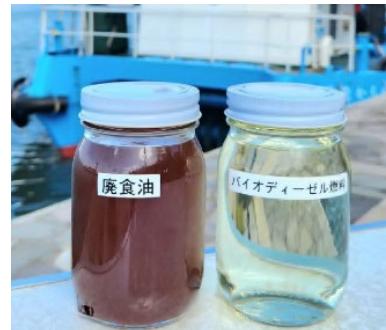
脱炭素社会の実現に向けた カーボンニュートラルポートの形成

■ 脱炭素化に向けた取組み

- 臨港道路等における照明のLED化
- 市所有の清掃船におけるバイオ燃料の導入
- 陸上電力供給施設の整備 など



バイオ燃料を導入している
清掃船（第2かもめ）



左が原料の廃食油
右が精製したバイオ燃料



陸上電力供給施設（須崎ふ頭）



バイオ燃料：

バイオマス（生物資源）を原料とする燃料のこと、化石燃料を代替するカーボンニュートラルな燃料として利用拡大が期待されている。



脱炭素社会の実現に向けた カーボンニュートラルポートの形成

■ 脱炭素化に向けた取組み

環境配慮型船舶に対するインセンティブ制度の導入

- 環境配慮型船舶の普及や博多港への寄港を促進するため、環境配慮型船舶に対する **入港料の減免制度を創設**（令和6年4月1日より適用）
- LNG燃料を主燃料とするクルーズ船などに対する適用実績あり

対象船舶	減免額
<ul style="list-style-type: none">・LNG燃料船・水素燃料船(燃料電池船を含む)・バッテリー推進船・アンモニア燃料船・合成燃料(グリーンメタン、グリーンメタノール)を使用する船舶	入港料 全額免除
<ul style="list-style-type: none">・バイオ燃料を使用する船舶・合成燃料(重油、軽油)を使用する船舶	入港料 燃料の混合割合に応じて減免割合を決定

«飛鳥Ⅲ»



© 2025 邮船クルーズ株式会社

«シルバー・ノヴァ»



© 2025 SILVERSEA CRUISES LTD.

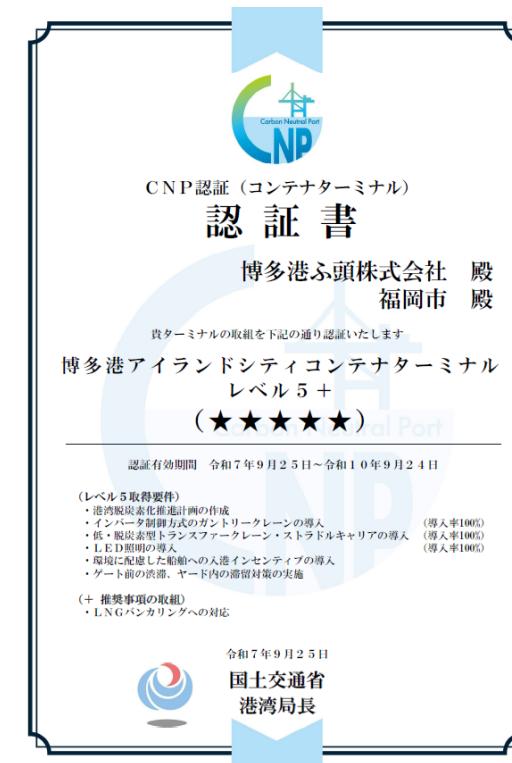
脱炭素社会の実現に向けた カーボンニュートラルポートの形成

■ 脱炭素化に向けた取組み

- コンテナターミナルにおける荷役機械の電動化などの取組みを推進
- 令和7年9月には、国土交通省のCNP認証（コンテナターミナル）制度において、アイランドシティコンテナターミナルが最高評価「レベル5+」を獲得



電動式トランスクレーンの導入



CNP認証の認証書

油流出事故への対応力強化

■事故の概要

- 令和3年1月、西防波堤に貨物船が衝突し**油が流出**し、博多湾内に油が拡散



- 流出油の防除は、原則として原因者が行うものであるが、被害の拡大を防ぐため、関係機関が連携し、**早期に対応を図る必要**がある。

油流出事故への対応力強化

■ 流出油防除マニュアルを作成

■ 関係機関による合同訓練の実施 (R4.5月・11月、R5.5月、R6.5月、R7.5月実施)

【主な参加機関】

- 福岡海上保安部 ○ 福岡市港湾建設協会 ○ 福岡市漁業協同組合 ○ 福岡市



吸着マットによる油回収



オイルフェンス展張



航走攪拌